

## 2 小学校の教育関係者と相互理解を進めたい！

5歳児から1年生の2年間は“架け橋期”として位置づけられているが、子供の学びは0歳から18歳まで連続している。幼児教育施設は、幼児期の教育と小学校教育の接続はもちろんのこと、さらなる先の展望ももちながら子供を育てることが大切である。

それぞれの発達の時期にふさわしい教育方法に特性はあるが、共通項も多い。次に示した3項目は、幼児期の特性である。基本としてとても大切なことであり、小学校等の教育関係者と共通理解を深めることが重要である。

### 幼児期における3つの重要な事項

- ① 乳幼児期にふさわしい生活の展開
- ② 遊びを通しての総合的な指導
- ③ 一人一人の発達の特性に応じた指導

環境を通して行う教育が基本

事例

4

### 幼児教育と学校教育に関する認識の共有をしよう（幼小連携）

- ・研修を通して分かり合う～「遊びを通じた学び」を伝える～

ねらい

幼小の互いの教育を伝え合い、幼児教育の学びを小学校教育につないでいく

年に2回（8月と12月）、幼稚園、保育所、こども園、小学校の関係者が、互いの教育を共有できるよう、幼保小連携交流会を実施し、幼児教育と小学校教育について伝え合う機会としている。

交流会は、幼稚園、保育所、こども園の園長と、5歳児担任、小学校教務主任と1年生担任が参加している。学校区ごとに分かれ、「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」を手掛かりに、子供の姿の共有を図っている。



【幼保小連携交流会】

幼稚園・保育園

### 「架け橋期カリキュラム」（一部抜粋）

5歳児 アプローチカリキュラム（1月～3月）	
期目標	一年生になることに喜びや期待を高め、目的や見通しをもって生活や遊びに取り組み、自信をもって行動する。いろいろな人たちとお世話になったことや心や体が大きくなったことなどについて考えあがり、その気持ちをもつ。 幼児と共通の目的に向かって取り組む中で満足感や充実感を味わい、自信をもって行動する。
月	週の指導内容
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬の過ごし方について考え、進んで行おうとする。（イ）（ロ）</li> <li>・正月遊びを通して文字や数字に関心をもったり、遊びに取り入れたいりする。（ハ）（チ）（リ）（ホ）</li> <li>・予定表を見たり、保育者の話を聞いたりして、一日の生活に見通しをもって過ごす。（イ）（ロ）（ニ）（リ）</li> <li>・あやとりや伝承遊び等に触れ、友達と工夫して遊ぶ。（ハ）（ヘ）（チ）（リ）</li> </ul>



小学校

知多市：アプローチカリキュラム.pdf

みんな なかよし いちねんせい					
大単元	目次	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目
1日目	中小連携 「はじめて、よろしくね 「にやうがくしきに さんかしよう」	行「入学式に参加する。(ホ)	学「にやうがくしきにさんかしよう(入学式)」学級活動に参加する。(入学式)(ハ)	学「にやうがくしきにさんかしよう(入学式)」学級活動に参加する。(入学式)(ハ)	
2日目	中小連携 「はじめて、よろしくね 「しやうしきに さんかしよう」	行「給食式に参加する。(ホ)	学「はじめて、よろしくね 「じぶんでできることを ふやそう」D	学「はじめて、よろしくね 「とけごうの しかたを おぼえよう」D	

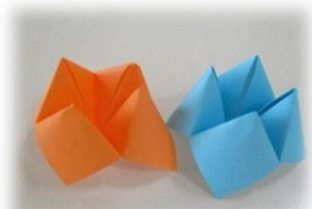


知多市：スタートカリキュラム.pdf



子供の具体的な姿から「遊びを通した学び」を小学校の先生に伝えました。

一人の子が始めた“ぱっくんちょ”作りに友達に興味をもち、折り方を教え合いながら、たくさんのぱっくんちょを作った。



【折り紙の作品：ぱっくんちょ】

ぱっくんちょのお店屋さんをしよう！

看板があるといいよね！

いいね！いいね！小さい組さんと呼ぼうよ。

〈子供の姿〉

〈幼児期の終わりまでに育ってほしい姿〉



高い所に看板があったよ。

- ①家の近くの店屋の看板を目にした経験から、友達に看板作りを提案する。
- ②看板作りに必要な大きい紙と段ボールの筒を見つけてくる。
- ③高い位置に貼ろうと筒を支えたり、高さ確かめたりする。

①社会生活との関わり  
言葉による伝え合い

②自立心  
健康な心と体

③協同性  
道徳性・規範意識の芽生え



そうだ！下に置いたらどう？

- ④筒がぐらついて貼れないため、どうするといいか考える。
- ⑤床に筒を置いて貼ると貼りやすいのではないかと予想し、友達に伝える。
- ⑥友達の考えを聞き、試してみる。

④思考力の芽生え  
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

⑤協同性  
言葉による伝え合い

⑥思考力の芽生え



「ぱ」ってどう書くの？知っているから書くよ。

- ⑦看板に店屋の名前があると、分かりやすくなると考え、友達に提案する。
- ⑧店屋の名前を書きたいという必要感から、文字を確認したり、聞いたりする。
- ⑨折り紙で飾りを作り、看板に貼る。

⑦社会生活との関わり  
言葉による伝え合い

⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

⑨豊かな感性と表現

一人の遊びが友達に広がり、新たな遊びを生み出していく。



5歳児と1年生のそれぞれの活動に参加する姿から、「遊びを通した学び」のつながりを、話し合いました。

5歳児の「らいおん組遊園地」と1年生の「おもちゃフェスティバル」に取り組む子供の姿から、幼児期の学びのつながりを伝えた。

〈5歳児〉



【「らいおん組遊園地」】

身近な材料を使い、工夫し、遊びに使う物を作ろうとする。

〈1年生〉



【「おもちゃフェスティバル」】

友達と協力して、遊びや遊びに使う物を工夫して作る。

学びのつながり

学びのつながり



【進んで声掛け】

年下の子に声を掛けたり、関わろうとしたりする。



【進んで触れ合い】

相手の立場を考えて、進んで触れ合い、交流しようとする。

生活や遊びを通して、架け橋期カリキュラムの学びを育んでいく。

1 月 3 週	・自分の考えが取り上げられるうれしさを感じたり、友達と考えが合ったうれしさを感じたりする。
	・遊びのルールや遊び方を友達に伝えたり、一緒に考えたりする。
	・友達の考えやアイデアを認め、一緒に遊びを進める。
	・鬼などを試しながら工夫して作ったり、表現したりして、イメージを広げる。
	・雪や氷などに関心を持ち、触れたり、比べたり、遊びに取り入れたりする。

「架け橋期カリキュラム」(一部抜粋)

ポイント

- ・園は小学校以降の教育を見通しながら、その基盤となる資質・能力を育成していく。
- ・小学校は園で育まれた資質・能力を踏まえて、教育活動を実施する。





「遊びを通した学び」について話し合い、共通の視点をもって子供の姿の共有を図りながら、資質・能力のつながりを確認し合いました。



(小学校教員)

「園では、どのような遊びをしていますか？遊びに使う材料や用具はどのように用意していますか？」



(保育者)

「子供たちは、これまでの体験や自分の知識を取り入れながら、必要なものを考え、身近な材料を探して試しています」



【話し合いの様子】



(小学校教員)

「小学校でも、身近な材料を使って図工で物を作ったり、算数で形を組み合わせたりしています。園での遊びと似ているところがありますね」



(保育者)

「幼保小交流会では、店屋の看板に文字を書いて貼ってあったり、年下の子に優しく話し掛けたりする姿が見られ、園で育まれてきたことが表れていると感じました」



(小学校教員)

「園での体験が、小学校の姿にもつながっていますね」



初任者研修のキャリア教育（幼保小中連携教育）として、小中学校の先生方に、園の研究を発表して、幼児期の学びを伝えます。

### 小中学校教員の感想

- ・幼児期は遊びが学びであり、遊びの中で思考したことが、小学校の学びの基盤となっている。
- ・繰り返しやってみてみたいと思えるように、子供の気持ちに寄り添い、環境や援助を工夫している。
- ・遊びを通して多様な方法で環境に関わり、思考を巡らせ、想像力を発揮しながら、環境への関わり方を発見している。
- ・小さな言動も見逃さず、何に興味をもっているかを感じ取り、環境を再構成することが大切である。



【遊びを通して思考を巡らす子供たち】

## ふりがえり

### 保育者と小学校の教員が相互理解を深めることで、子供の学びがつながる

幼児期の教育と小学校教育では学び方に違いがあるが、学んでいる内容には共通点が多い。その違いと共通する内容について、保育者と小学校の教員とが相互理解を深め、互いが子供の学びのつながりを意識しながら、それぞれの教育を見通して充実を図ることが重要である。

そのためにも、カリキュラムについて、園側と小学校側の両方で話し合い、接続を意識したもの（就学先に関わらず、基本的な内容）を作成することが必要になってくる。